

村長に聞く! ~ 一般質問 ~



那須 清 議員

質 問 小規模木質バイオマス 発電事業への取組に ついて

問1 地球規模での温暖化防止、原子力発電の事故影響、中東諸国においての原油価格の不安定から近年、水力・風力・太陽光・木質バイオマス等の自然エネルギー供給再生が注視されている。

そうした現実と林業立村を目指す村の立地・環境条件・林地残材等豊富な資源を活用した木質バイオマス発電所を建設運営することを取り組んだらどうか。

地域密着型の施設運営は、売電による収入はもちろん、雇用の拡大、地域の活性化、森林所有・作業者の所得向上につながり、本村の基幹産業である林業振興が図られる。企業の誘致も含め、林政審議会等

で研修・研究の場を創ったらどうか村長の見解を。

答1 現在県内には、稼働中の木質バイオマス発電所が10施設ある。燃料となる原料については、数字上は調達可能と判断されている。本村では、平成26年度に協議会を設立し研修会の開催や県補助金による輸送支援を図ってきている。その結果、28年度が710.8トン、29年度が、1422トンに至っている。本村においても、国内のエネルギー政策に注視しつつ、可能性について検証を図っていく。



河口吉弘 議員

質 問 低い年金で暮らす 高齢者世帯の生活支援 について

問1 椎葉村における生活保護の年額基準額は、70歳一人暮らしで約70万円、70歳夫婦世帯で約120万円。本村の65歳以上一人暮らし世帯は228世帯、65歳以上高齢者だけの世帯は188世帯、387人となっている。あわせると416世帯、615人となっており、50万円以下の年金受給者や低収入の高齢者が多く存在し、厳しい生活を余儀なくされている。

平成25年9月定例会において、低年金の高齢者世帯の生活実態を把握し、支援策の検討を行うべきとの質問に対し、村長は「生活保護基準以下の年金受給者もいるが、節約しながら懸命に暮らしている。仕送りや蓄えもあり直接支援は問題がある。調査はプライバシーの侵害もあるが、困っている人を救うのが行政の責任、民生委員と相談しながら論議、調査したい」と答弁。これまでどのような調査や協議、検討が行われてきたかを尋ねる。

答1 生活に困窮している高齢者については、国民年金保険料を納めていなかったなど、様々な理由があると考え。全国的な問題であり、国においては生活困窮者の支援制度が開始された。この制度とは別に、低所得者への直接支援策である臨時福祉給付金や低所得者の高齢者に対し、年金生活者等支援臨時福祉給付金が支給された。あわせて民生委員や社会福祉協議会などと一緒に、高齢者の見守り活動や心配事等に対する相談を行ってる。

今後も高齢者への福祉施設を継続しながら、必要に応じ充実を図るなど支援をしていきたい。

問2 生活保護制度は高齢や病気などで収入がなくなり、最低限度の生活を保障する最後のセーフティネット。今年2月5日の衆議院予算委員会において、総理は「生活保護制度は最低限度の生活を保障する最後のセーフティネット、本人からの申請を待つばかりでなく、住民に対する制度の周知や民生委員と連携し、生活に困窮している人の発見に努め、生活保護への偏見をなくし、保護を必要とする人には、確実に保護を適用するという制度の適正な運用に取り組んでいく」と答弁している。本村においても制度に対する正しい理解と周知に取り組んでいただきたい。